

「一階」ワンズヌーヴォー」 世界初・脳と健康と香りの新システム完成

米国公益法人世界学術研究アカデミー財団より
栄誉ある「学術研究アカデミア賞」受賞



リンダ・ボーリング女史より賞を藤田社長に



肌年齢・脳ストレス度をはかる

り、昔の面影の残る外観にと知恵を
絞り、「一階は、近代的なハイセンス意
匠を施して創り、「いにしえ」と「近
代」を調和・融合した新「フットテク
ノビル」として再生しました。

大正モダンズムのはしりの洋風建
築（一九二二年建立）といわれている元
町通5丁目にある四階建の「フット
テクノビル」は、2004年六月に
国の有形文化財に登録されました。
また偶然NHK神戸放送局さん
が、このビルから産声をあげていたこ
とが判り、当時の写真から出来る限
り、昔の面影の残る外観にと知恵を
絞り、「一階は、近代的なハイセンス意
匠を施して創り、「いにしえ」と「近
代」を調和・融合した新「フットテク
ノビル」として再生しました。

「一階の「ワンズヌーヴォー」は、世界
的な健康商品をソフトウェアと共に
日本全国へ発信するアンテナショップ
です。脳の「若返り」や「ひらめき」
の「香りのサーキエッセン」は、二月
二六日に、WHO関連の世界学術研
究アカデミー財団より世界学術研
究審査協会の認定を得てリンダ・ボ
ーリング女史が来室され、この商品
に学術研究アカデミア賞という最高
の栄誉ある賞を頂き、世界的な信
用が増加いたしました。ぜひご来館
下さい。

株式会社フットテクノ

代表取締役社長 藤田 稔



アロマサイエンス、はじめよう!



ONE'S NOUVEAU 1F

ワンズヌーヴォー 脳力開発ラボラトリー
神戸市中央区元町通5-2-8 〒650-0022
TEL.078-351-1206 FAX.078-351-1090
OPEN 11:00-19:00 水曜定休
www.onesnouveau.com



松山秀子・吉井理恵
山崎さんと藤田社長

元町駅すぐ上 忙しい方でもここで指先の美しさを！
ヒサコネイル神戸元町店オープン



JR元町駅2階に、ネイルサロン「ヒサコネイル神戸元町店」がオープンした。賑わう駅構内から1歩お店に入れば別世界。ピンクとホワイトの「ヒサコカラー」と清潔感あふれる空間が、くつろぎを与えてくれる。



お客様気分のソファでケアしてもらえるフットケアスペース。混んでいてもカーテンで仕切れば個室並みのくつろぎが得られる。



ヒサコネイルオリジナルのネイルケア商品である、爪にやさしいリムーバー、ネイルトリートメントオイルの他、敏感肌にも安心のスキンケアクリームも人気。

く健康に保つためのハンドケア、フットケアから、身体の健康までトータルにアドバイスしてくれるサロン。医学や栄養学まで、しっかりと学んだスタッフが、あなたの指先を美しくサポートしてくれる。爪が伸ばせない人や、特にネイルに関心がなかった人も、ネイルケアから始まる心身の健康を体感してみては。最近話題のメンズネイルも。

元町店では、忙しい方のために、基本的なハンドケアの「クイックケアコース（2625円）」、「カラーリングコース（2625円）」などをご用意。また、巻き爪など爪のトラブルでお悩みの方もぜひご相談を。ゆったりとしたソファのフットケアスペースが完備されているため、足の指の巻き爪矯正も可能で、ネイルアートは手と足同時に行なうことも。お仕事帰り、ショッピングの合間に立ち寄ってみよう。



hisako

ヒサコネイル神戸元町店

JR元町駅東口1構内2F

(「DELI CAFE」1階「episode」店内を入り奥の階段上る)

TEL.078-321-5848

10:00~21:00 定休日なし

神戸っ子読者に特別プレゼント/ハンド・フットコース無料招待券を2名様に、50%割引券を10名様にプレゼントします。住所・氏名を明記して奥付住所までハガキでご応募ください。



「わく、きれいな人」

トゥインクルが、赤い欄干（らんかん）のねね橋を渡ると、ひとりの美しい女性の像がありました。

ねね像です。ねねは、有馬温泉を愛した大閼秀吉に思いをよせ続けていた女性です。

「わく、モコモコ湯けむりや」
トゥインクルは、有馬の天然神社の境内にある天神泉源を見していました。

ここは有馬の代表的な泉源で、この湯けむりを背景に、記念写真を撮られていく観光客が、よく見られます。

トゥインクルは、このボコボコと、音をたてながら出てくる白い湯けむりを、無邪気に見つめているのです。

藤原 健二
t&b
～トゥインクルとビッグ～
第七話
すてきな散歩
天神神社～ねね橋





ねね像の、その瞳が見える先に、大閼像があります。

そして、大閼像の瞳もまた、ねね像を優しく見つめ返すかのようでした。

「あっ！」

トゥインクルが、遠くにある大閼像から、すこし視線をあげると、そこに大きな精霊ビッグがいました。

ビッグは、今日もこっそりトゥインクルに、いたずらをしにやって来たようでしたが、思わぬことにトゥインクルに気付かれてしまったため、あわてて逃げていってしまったのです。

「逃げんでもいいのに・・・ねえ」

トゥインクルは、ねね像に向かって言いました。そして、ただ黙ったまま見つめ合う、ねね像と大閼像を、すこしうらやましく思うのです。

ウェイバー

味覇は味の王様



数千年の歴史の中で極められた本場の醍醐味が、家庭で味わえる。それが味覇。

鶏、豚などの特選スープを基本に、新鮮野菜のエッセンス・高級油脂など20種類のスパイスを調合し、味・コク・風味の3拍子揃った高級中華スープの素。

また中華料理だけでなく、和・洋の料理にも使え、味の世界が広がる、まさに神戸にふさわしい品である。本場中国の秘味が家庭で花開く。



株式会社 廣記商行

南京町本店
神戸市中央区元町通1-1-4
TEL.078-331-1114

美味探求

ほんとうの手造り味わう。

ご贈答品に！
おみやげに！ 地方発送承り中！

神戸元町にうまいもの発見！
新鮮な豚肉と秘伝のタレに
“たつぷり”と漬け込み、
特製の直火釜で“じっくり”と焼きあげた
手造りの焼豚

A003

手造り焼豚(1本)



A005

手造り焼豚(2本)



AB05

手造り焼豚(1本)と
豚肉味噌漬(10枚)



期間限定 ABH6

手造り焼豚(1本)と
特選ロースハム(1本)と
豚肉味噌漬(5枚)



C005

手造りロース焼豚(1本)



新生会社のギフト通信販売



新生会社

●元町本店 神戸市中央区北長狭通3-3-2

●電話どうぞ...

●元町本店 078(391)4011 ●南京町店 078(391)5859

■私の意見

震災十年 神戸からの発信 〜してきたコト、これからするコト〜

永吉 一郎

(株)神戸デジタル・ラボ代表取締役



あの阪神・淡路大震災から早や10年が経とうとしています。その間市民・産・官・学、それぞれが様々な立場で努力してきました。その結果、十分とは言えないかもしれませんが神戸はかつての活気を取り戻しました。ここで一先ずこれまでの十年の歩みを振り返って、震災の経験や教訓を総括し、かつ神戸の魅力为全国に発信するために神戸市が中心となって推進している事業があります。

「震災十年 神戸からの発信」は、単に自治体が推進するイベントでは無く、市民・財界関係者・学識経験者などで組織された推進委員会で十分な検討がなされ、今年の12月から来年の12月まで一年間に亘って様々な事業が計画されています。

サブテーマに「してきたコト、これからするコト」と定められ、過去を総括するだけでなく、未来の神戸に明るい火を灯すための仕掛けが随所にちりばめられています。一例を挙げますと、メリケンパークにある海洋博物館を情報発信の拠点として改装を行い、地元若手クリエイターの作品を展示します。また、今年10歳になる世界中の子供たちの笑顔の写真を募集して展示を行ったり、博物館前の広場ではフットサルのコートを整備してスポーツ振興を行うなど、市民参加と市域内外への魅力溢れる情報発信が中心となります。

また、市民団体が行う事業に対しては公募形式で公的助成がなされ、市民と神戸市の協同事業が数多く予定されています。会期終了である来年12月までの一年間におよそ90程度の事業が予定されています。

オープニングは今年の12月4日、神戸文化ホールにて開催され、健康、安全、安心をテーマにシンポジウム、パネルディスカッション、子供たちのコンサートといったプログラムが予定されています。次の十年のためにこの十年を市民の皆様と共に振り返る。そんな一年にできればとこれまで委員会、事務局共に頑張ってきました。できるだけ数多くの市民の皆様の参加をお待ち申し上げております。

震災十年 神戸からの発信ホームページ

<http://www.kobe10th-year.jp/>

●月刊神戸っ子震災10年記念特集
震災10年100字メッセージ②
(順不同・敬称略)



被災後、神戸市民を励ますために「ファイト」の字を灯したホテルオークラ神戸

震災はそれぞれの心と想い

施蓮華（群愛飯店本店）

「十年一昔」こと震災に關してはそうとは言い切れないものを感じます。けつして忘れることのできない、又、記憶の彼方にふうじ込められたような相反するもの：それぞれの人の心に、それぞれの想い―震災―

1月になると思い出す

田中香代子（ナチュラリープラス）

お誕生日日前の出来事、マンションに住み痴呆症の母と二人家の中の物がぐずれ4時間かかって出る。勤務先が京町筋にあり50年になるビルは無事。新しいビルや又東側の江戸町ビルが倒壊。1月になると色々と思ひ出し胸が熱くなる。

ふたたび神戸から飛翔せよ

高橋洋三（タカハシパール代表取締役副社長）

あの海と山が

あの街の灯が

あの明るい笑い声が

あの素晴らしい人々が

今、ふたたび神戸から

飛翔せよフェニックス

がんばろう、神戸！

そして迎えよう

ひかり輝く未来を

「文化」は国の根元

五代田畑喜八（田畑染色美術研究所）

神戸という、京都人には何かエキゾチックな町。その中でも異彩を放っている月刊神戸っ子の震災10年記念号。

「文化」は神戸、いや国の根元であり、その灯を消す事なく、新しい時代に挑戦し、人々の心の糧にしてほしい。

自然の力・人間の力

岡繁男（株岡工務店取締役社長）

1月17日、地震、終戦後50年かけて築いてきた神戸の街が一瞬にして崩れ落ちた。人々は夫々の職場で懸命に復興に励んだ。今日神戸の街を見て思う「自然の力は大きい、しかし人間も力を合せば素晴らしいものだ。」

忘れまい瓦礫の街

高橋正人（月刊神戸っ子OB）

すべてが目まぐるしく通り過ぎていく。10年という時間は人々の記憶を風化させるのに十分だ。一瞬のうちに瓦礫と化した街の貌に立ちつくした日の（私）のことは忘れまいと思う。しかし、共有できるものは何もない。

ネイルケアのボランティア

山崎比紗子（ヒサコネイル社長）

阪神大震災の時、新神戸で営業していた当社サロンが、やむなく閉店したことや、スクール生達をつのり寒中、ネイルケアのボランティアをしたり、ネイルオイルやクリームなどを被災者の方々に配りして、喜んで頂いた事を今でも思い出します。

1・17非常用袋の入れ替え日

羽多悦子（彫刻家）

今も足元からの揺れには身が張りります。PTSDでしょうか。記念日は非常用袋の入替え日としました。

都市景観のリニューアルと共に人々の心にも文化にも神戸のほこりを取りもどし、充実してゆきたいものだと考えます。

神戸市民として頑張りたい

山内恒男（インテリアデザイナー）

神戸出身の私ですが、月刊神戸っ子さんを、通じ新たな多くの方々と知り合い、プラスになることが多く、交際範囲が広がりが公私とも充実した10年となりました。震災後10年まだまだ、復興したとは言えない状況ですが、神戸市民としてこれからも頑張りたい、思います。

変らない神戸っ子たちの心意氣
川崎啓一（月刊神戸っ子OB）

神戸から多くのものが消えた。
が、失っていないものもたくさん。
神戸っ子たちの心と意志は変わら
ずいき続いている。こんな素晴ら
しい被災地って世界にないぞ。そ
れでも亡くなった生命が還ってこ
ない事実は、悲しい。

板宿と小千谷市の地震体験交流
原仁美（関西和装学院院長）

震災に対する意識の違いはあつ
ても、恐ろしく悲しい現実はず
に語り継がれていく。板宿と小千
谷市の小学生と地域の人たちの地
震体験交流を企画。

つなごう きづこうと実現に向
けて地元団体が結集している。

創造的復興

貝原俊民（財）阪神・淡路大震災記念協会理事

震災で、多くの大切なものを失
った。私たちは、それに耐えて懸
念に頑張った。10年を経て、未だ
創造的復興への道半ばである。

しかし、明日への夢に誇りをも
つ私たちには、真の進歩をめざす
勇気がある。

瓦礫の中から九死に一生

木村多恵子（ライフクリエイター）

人はひとりでは生きられない!!
あの日瓦礫の中から九死に一生を
得た私。瀕死の私を支えて下さつ
た病院の先生方、友人知人、名も
知らない人達、多くの愛に支えら
れての10年でした。アリガトウ!!
感謝の気持ちで一杯です。

地域文化向上の使命を

佐藤廉（元町画廊）

震災10年目を迎える年、文化に
携る各ジャンルのアーティストた
ちは、個々の体験を生かして、各
自のアートを創作し地域文化向上
の未来発展の為に貢献する事が使
命だと自確して、今年は大いに頑
張る事を期待したい。

次のステップ感性ゆたかに

市村礼子（CSの会）

私の好きな神戸、汗と涙で頑張
った10年。今、次のステップへ美
と力と英知が集結し逞しく船出し
ようとしています。エネルギーシ
ュで、感性豊かな神戸っ子が創り
出す新しい神戸。力強く羽ばたく
日を楽しみにしています。

復興にかけた10年の祈り

岡本真穂（詩人）

神戸の苦しみと共に歩んだ10年。
出版と云う経費のかかる本作りに
も企業との痛み分となった。小泉
美喜子の10年は震災そのもの。
復興にかけた10年の祈りも秒読み
1月17日神戸は泣いた。そして
10年 美喜子泣くな!

ポランティアの豚汁の味

龍口篤夫（フイチンシャル・アドワイザー）

地震も多い信州に育った私にと
っても、あの大地震は驚きだった。
しかしその日から始まったポラン
ティアの路上での豚汁の味。そし
て地元のに「がんばろう神戸」の前
向きの動き、それらも伝えて来た
「月刊神戸っ子」の不滅を祈る。

百年後のカプセルを奉安

栃尾泰治郎（湊川神社宮司）

阪神大震災が齎した大きな犠
牲を、震災の驚くべき脅威と共に
いつまでも忘れることなく、且つ
後世への貴重な教訓として伝へて
ゆきたい。湊川神社の鳥居には、
そんな願ひを込めた百年後のカプ
セルが奉安されてゐる。



神戸の貴重な財産を生かす
梁建緯（建築家）

トリアロードはかつて外国人居留地と彼らの住む北野町界隈を結ぶ生活道路として賑わいました。日本でも珍しい歴史的背景をもった神戸の貴重な財産です。

このストリートを守る為住民が皆んなで参加出来るトアロードクラフトアートフェアを97年より8回行い、今後もこの活動を続けていきます。

新しい都市の魅力発信を
水越浩士（神戸商工会議所会頭）

今年、震災10年という大きな節目を迎えた神戸は、世界中から注目されています。内外からの温かいご支援に感謝し、地域経済の活性化や街づくりを通じて、新しい都市の魅力を発信していきたいと心から願っています。

亡くなった一人息子が応援
馬場芳朗（カメラマン）

一瞬にして一人息子と全てを奪った震災が憎い。今は心に決めました。『楽しみは明日に延すな！』と…。懸命に「今」を楽しんでいると、ドンドン世界が広がって参ります。まるで息子が応援してくれているようにです。

神戸の「今」は日本の誇り

中野順哉（作家）

先生や友人を一夜にして失う：あの地震はそんな経験でした。以来「今」という時と人との出会いを無二のものと肝に銘じ早10年。神戸の「今」は日本の誇り、私にとっては範とすべき「父」。負けずに追いかけます。

文化はこれからが本番

延原武春（日本テレマン協会代表）

震災の事は鮮明に覚えていきます。様々な避難場所に出向き演奏会をしたことなど：あれから10年。ここまで見事に復興した都市も少ないのでは。文化をやる人間にとってはこれからが本番。一緒にがんばりましょう。

心のキャンパスに鮮明に

三浦照子（詩人）

10年の歳月を経ても震災の、あの悼ましい構図は心のキャンパスに鮮明に刻まれている。また報道される各地の様々な災害の状況も実感として受け止めるが、あの春、崩壊した街を彩った桜のように神戸っ子の展開を祈る。

氏子・崇敬者の大きな力に感謝

山森大雄美（二宮神社宮司）

社務所全壊、社殿半壊、石像物全壊の惨憺たる状況の中、5月には震災復興奉賛会を立ち上げ翌年8月には大体の復興が終った。氏子・崇敬者の大きな力に常に感謝しながら今の神明に奉仕する私があります。

根強く神戸を守りたい

八木美彩代（美容室エリザベス代表取締役）

美容室エリザベスは創業57年を迎えます。月刊神戸っ子とは共に神戸の空気を肌で感じながらここまで来ました。震災10年にあたり多くの業者が消え又生れた事でしょう。今ここに根強く頑張つて神戸を守りたいと思います。

知恵と努力で如何に立ち直るか

木村禮子（小原流華道家）

自然界でも、人が築いた歴史でも平坦はありません。事が起きてしまった時如何に立ち直るかは人間の知恵と努力。今や世界レベルです。阪神大震災10年目に「神戸っ子」もいち早い文化的更生にエール!!

積み重ねの上に未来が

正田佐与（オフィスシエルバ代表）

美しい街、震災を経験した街・神戸が、過去と現在と未来、バランス良くミックスして発展していきますように。「今、ここ」の積み重ねの上に未来があることを信じて。

これからも

安水稔和（詩人）

震災1年目の冬に書いた詩が「神戸 これから」でした。震災10年のこの冬に書いた詩は「神戸 これからも」です。10年が区切りではない。これからもである。そう思っています。

語り継ぎ社会の未来に生かす

田辺眞人（園田学園女子大学教授）

10年経ったということは10才未満の子は震災後の誕生。5、6才までの記憶は断片的ですから、トラウマは別として中学生以下の人には震災は正確な経験とは言えません。語り継ぎ、社会の未来に生かし、復興に努めたいです。



踏んばって生きるしかない
風早由美（フランス料理ルー・サロメ）
フランス料理を始めて27年。苦
しみの根は深く厳しくなった。連
帯感を持って各自の場で踏んばっ
て生きるしか道は無い。おいしい
料理と和らぎの時間と空間を創造
したい。神戸の街の小さなオアシ
スとして輝いていたい。

八幡さんの旗が冷たい風に
金正郁（陶芸家）

あらゆる災害の被災者は、時の
運・不運もある。神戸の震災は、
えべっさんが終り次の厄除八幡の
前に起った。お賽銭も1円も受け
ずに。窓から見える数本の八幡さ
んの旗が冷たい風に、はためいて
いたのをよく覚えている。

脑梗塞から、また好きな絵を
小野治美（洋画家）

あれから10年、目の前がすっか
り変わってしまった。神戸の
美しい街が、瓦礫の山に。私の脳
も脑梗塞をおこし、入院生活が続
きました。でもやさしい囲りの人々
に助けられ好きな絵を描き続けら
れています。そんな時いつも「神
戸っ子」がいます。

心の時計の針が止まったまま

永田萌（イラストレーター）

あれからもう10年。ひとつのくぎりではあるけれど、まだ心の時計の針が止まったままの方も多いと聞きます。

同じ時代に生きた者として忘れてはいけないことを今一度、深く胸に刻み手を取って歩いて行きましょう。

君は風となりぬ

田辺聖子（作家）

震災の瓦礫の中で貝原知事さんはお供えの紙片を発見されます。「人の形をときて／思いのすべてを天にかえして／君は風となりぬ」この悲しくも美しいお話を紹介して下さった「神戸っ子」。忘れられません。

150万市民の熱気を後世に

奥村孝（弁護士）

震災60年・震災10年。しかし神戸の街は不死鳥の如くよみがえりました。元気をとりもどした150万市民の熱気を後世に伝えるためにも「月刊神戸っ子」が必要です。如何なる逆境にも耐えて成功するのが神戸っ子です。

みんなで創る心ゆたかな社会

林五和夫（CSの会長）

大水害、大空襲、大震災を体験。県民会館の復旧、癒しと励ましの芸術文化活動支援、新しいコミュニティ・リーダーの育成とネットワークづくりで十年一日の如し。平和で、安全で、こころ豊かな社会をみんなで創ろう。

目覚しい神戸の復興

田中悠子（和紙ちぎり絵しゅんこう）

折々、全国から来神する関係者の皆様が目覚しい神戸の復興に感動してお帰りになります。震災10年を新たなステップとして、神戸発信の文化に誇りを持ち、神戸の更なる発展にお役に立ちたいと心から願っております。

神戸は地震国に住む教訓

森亮喬（日本ネオ・トロピカル協会理事長）

神戸大震災は未だに生々しく私の胸に残る大惨事でした。神戸市長に寄附を届けるべく東京から、かけつけた神戸は想像を絶する悲惨な光景でした。

地震国に住む私共は常に忘れてはならないという教訓をその時得たのです。

美しい心大切にしたい

雲井世雄（能福寺住職）

震災直後の大混乱の中、見知らぬ人同士が好意を交し、苦しい境遇を共有し合った。美しい人間関係を築いた。しかし世間が落ちついて来た時、こういう思い遣る心が薄らぐのは人間の性（ふるさ）だろうか。社会生活（せう）はこころを大切にしたい。

愛と夢と希望を胸に

風さやか（元宝塚歌劇団）

1995年。1月17日。5時46分。時をとめて…決して忘れてはならないあの日を！もう一度心をひとつに手と手のぬくもりを感じ合い、愛と夢と希望を胸に未来に向かい心をこめてこの歌を唄い続けてゆきます。5時46分…祈りをこめて…!!

勇気づけられた“大きな愛”

三浦啓子（クラスアーティスト）

1月17日、恐怖がまた押し寄せて来るあの日の記憶。日記をひもとくと瓦礫、砂埃、そして悲痛な叫びの中にあつて、大きな愛に人々が勇気づけられ、涙をぬぐって立ち上がって行った様子が記されている。今私に何が出来たのだろうか。私が生涯をかけてこの感謝の気持ちで、“大きな愛”をテーマに作品を制作してゆきたいと思っています。



元町商店街で「ヴィッセル神戸Jリーグ昇格」(1996年)

物づくりにこだわる神戸

白井操(料理研究家)

地震で失なったものはたくさんあるけれど、神戸を思う人の気持は変わらない。目に見えないものを求める気持の中に物作りへのこだわりがある。パン、ケーキ、洋服、くつ等々。神戸っ子が紹介し育てたことって一杯!

小さなカレー屋も生き返った

那須楠子(カレーショップくらしき)

突然自宅も店もなくした。あの頃お客さんが大勢「もういちどカレー屋を」と声を掛けて下さったおかげで再開に漕ぎ着けた。あれから10年、私の大好きな神戸も、小さなカレー屋も生き返った。10年の歳月よりがとう。

新しい芸術の発信地に

嘉納千紗子(アーティスト)

今、神戸は時の流れの波動が逆流しているような気がします。美しい波が文化の息づきを根づかせ10年後は、世界中が注目する新しい芸術の発信地になることでしょう。そんな神戸になることを願っています。

酉年飛翔

寒中お見舞い申し上げます



書／高砂京子

月刊神戸っ子震災10年記念号を発行する会

<p>株式会社フェリシモ</p> <p>代表取締役社長 矢崎 和彦</p> <p>神戸市中央区浪花町59 TEL.078-325-5555</p>	<p>株式会社 アシックス</p> <p>取締役会長 鬼塚 喜八郎</p> <p>神戸市中央区港島中町7-1-1 TEL.078-303-2230</p>	<p>財団法人 本州四国連絡道路管理協会</p> <p>理事長 幸前 成隆</p> <p>神戸市中央区雲井通4-1-2 三宮東ビル4F TEL.078-242-3833</p>
<p>有限会社 ティエスプラン</p> <p>本社 薬局朝霧ファーマシー</p> <p>代表取締役 霜 寄 敏文</p> <p>明石市朝霧町3-15-12 TEL.078-911-1570</p>	<p>兵庫県日韓親善協会</p> <p>会長 砂野 耕一</p> <p>神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸バクリスタルタワー27階 川崎重工工業株神戸本社内 TEL.078-371-9583</p>	<p>ハートフル医療の鐘紡記念病院 鐘紡記念病院</p> <p>院長 上羽 康之</p> <p>神戸市兵庫区御崎町1-9-1 TEL.078-681-6111</p>
<p>辻尾産業株式会社</p> <p>代表取締役 辻尾 一仁</p> <p>神戸市北区南五葉1-2-4 TEL.078-592-1002</p>	<p>株式会社 加美乃素本舗</p> <p>代表取締役社長 宮崎 幸三</p> <p>神戸市中央区熊内橋通3-3-25 TEL.078-231-1455</p>	<p>社会福祉法人 明進會</p> <p>たるみグループホーム・たるみ保育園 デイサービスほかからか・えがの窓口</p> <p>理事長 並川 明子 施設長 中後 寛</p> <p>神戸市垂水区平磯4-5-14 TEL.078-707-5888</p>
<p>クラシック ライブハウス ピアジュリアン</p> <p>クラシックの出会いを喜びなく、友と語り合う店</p> <p>ディレクター 近藤 英二</p> <p>神戸市中央区加納町4-3-2 近藤ビル9F TEL.078-391-8081</p>	<p>株式会社 エーデルワイス</p> <p>代表取締役会長 比屋根 毅</p> <p>兵庫県尼崎市尾浜町1-3-22 TEL.06-6426-2561</p>	<p>クルーズのゆたか倶楽部株式会社</p> <p>代表取締役 松浦 睦夫</p> <p>大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル TEL.06-6455-0931</p>
<p>株式会社 ダイシンプランニング</p> <p>代表取締役 服部 晴明</p> <p>神戸市長田区東尻池町2-9-17 TEL.078-685-6685</p>	<p>帝神畜産株式会社</p> <p>代表取締役社長 外池 良光</p> <p>神戸市兵庫区材木町4-41 TEL.078-681-7276</p>	<p>横山倉庫株式会社</p> <p>取締役社長 横山 吉雄</p> <p>神戸市中央区磯上通8-1-29 TEL.078-231-5311</p>

(順不同)

■震災エッセイ

やつと10年、これから10年

神戸はふるさとになり得るか

大谷 成章（フリーライター）

いまでも気になっている光景がある。J.Rの神戸駅から西へ電車が走るようになったのは二週間後の一月三十日で、その日の夜のことだったと思う。

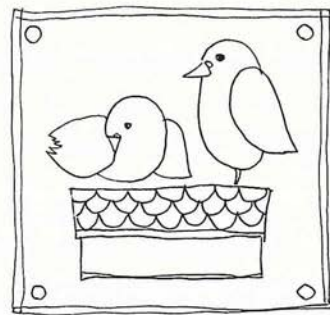
須磨の駅のホームに、小学校5年生くらいの女の子と3年生くらいの男の子が。男の子はリュックを背負い、大きな布のバッグを提げていた。女の子は手ぶら。

姉と弟のようなのに、どうして弟ばかりが荷物を持っているのだろう。気になって、見つめてしまった。

電車が入ってきて、姉が弟を押すようにして電車に乗せた。姉はホームに立って何か言っていた。弟は振り向かなかった。ドアが閉まるとき、姉はまた何か叫んだようだった。弟は身を固くしていた。

電車が動き出して、姉は毛糸の手袋を脱いで小さく手を振った。弟はそれを見ようとしなかった。姉は、階段を戻るときも、途中で立ち止まって、電車の赤い尾灯にもう一度手を振った。

あの日から、ぼくは一度も涙をこぼさなかったが、このとき、初めて目の下をぬぐった。



カット／上村亮太

五十年前の疎開を思い出した。妹といっしょに、背中にも、肩にも、両手にも、荷物をくくりつけてられて家を出た。両親は、勤労奉仕に動員されていて、駅に見送りに来る余裕はなかった。そのときの心細さがよみがえったからかもしれない。

ぼくは妹と2人だったが、須磨駅の姉はどうして弟といっしょに移動しなかったのだろうか。夜遅く、弟はどこへ旅立ったのだろうか。姉の帰る家は無事に建っていたのだろうか。なぜ親はついてきていないのだろうか。

それが、いまでも気になっている。

あれから、ふるさと、ということをよく考える。必ずしも生まれ故郷、ということではない。ぼくにも生まれ故郷はあるが、もう、家もないし、墓もない。あるのは、もぐって魚を追いかけた川の水の冷たさ、赤とんぼが舞う山の畑の涼しい風。そんな記憶だけだ。

ふるさとというのは、田舎のことに限らない。まちに生まれ、育ったひとにだって、ふるさとはある。引越しが多くて、住む場所が転々としたひとにだって、ふるさはきっとある。

「ふるさととは、魂が帰りがついているところだ」と言うひとがいる。墓所があるところ、という意味ではない。自分の生き方が、そこだったら受容され、その風土に重ね合わせることができると、そういう環境がふるさとの候補になる、というのだ。で、神戸は多くのふるさとになるだろうか、とあれからよく考える。

一瞬、異形のまちになってしまっても、みんなは「神戸が好きだから」と、壊れたまちをいたわり、傷をいやし、なんとか立ち上がれるようになてさすってきた。神戸は、魂のよりどころだと、みんなは思っていたのだ。

あれから十年。ほくにはなじめないにかが、このまちにつきまといてきたように思える。硬質の、高層建築群の出現だけではない。取材中、ふんぞり返るひと、借り物の権威を自分の力のように振りがさすひと、そんなひとたちによくぶつか

る。復興といっても、建物の再建、新設ばかりに心が向いていたのではないだろうか。「神戸が好きだから」の「好かれていっているもの」はなんだったのか、ほくらはそれをしっかりとつかむ努力を怠ってきたのではないだろうか。

うれしい話もある。長田区御蔵通五・六・七丁目自治会が建てた集会所のことだ。但馬の、明治時代の回船問屋の乗組員宿舎を移設した。畳敷きで、寝そべってみたくなる。

自治会の集会所なんて、ふだんはあまり使われない建物だけど、ここはいつもにぎわっている。会議だけではなく、そば打ち道場にそば屋さんが借り、アフリカの民族音楽の演奏会も開かれてい

る。

「魂が帰りがついている」——そんな環境を、このまちのひとたちは実現した。

それにしても、須磨駅の姉弟は、どこにふるさ

とを見つけることができるのだろうか。

■大谷 成章（おたに しげあき）

1939年但馬生まれ。元神戸新聞記者。震災当時は月刊神戸子編集者。その後フリーライター。NPOひょうご農業クラブ専務理事。「神戸、その光と影」(鹿野社)、「阪神・淡路大震災10年」(共著、岩波新書)



ヘルメットにマスク。'震災ルック'の子どもたち（1995年2月、北野小学校で。大谷撮影）



■震災復興音楽対談

レオン・シュビラー（元ベルリンフィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター）
矢野正浩（アンサンブル・神戸代表）

アンサンブル神戸は震災後の神戸と
一緒に歩んできたような気がする

阪神間を中心に音楽活動を行うアンサンブル神戸。

10月27日、ゲストには元ベルリンフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターを務めたレオン・シュビラーさんを迎え演奏会を開催した。シュビラーさんの円熟した演奏は、来場者を虜にした。アンサンブル・神戸代表でもあり、フルーティストでもある矢野正浩さんと共に、お二人の出会いや音楽

に懸ける情熱についてお話を伺った。

神戸はリラックスした雰囲気
芸術的な趣もあって好きですね

矢野 シュビラーさんとは、12年前、僕がフィンランドのオーケストラに在籍していた時、東南のカ

レオン・シュビラー
ドイツ・ベルリン生まれ。1963年から1994年までベルリンフィルハーモニーオーケストラの第一コンサートマスターを務める。1968年、日本でもソリストとしてのデビューを飾り、ベルリンフィルのコンサートマスターとしてはもとより、ベルリン室内管弦楽団のコンサートマスター、最近ではイタリア国立放送管弦楽団のコンサートマスターとしても来日している。また、ミュンヘン及びジュニアの国際コンクールのヴァイオリン部門審査員にも就いており、ベルリンフィル退団後も各国より指導的立場で招聘され活動している。



矢野正浩（やの ただひろ）

1987年第57回読売新人演奏会に出演、ザルツブルグ、モーツァルテウム音楽大学を経て、1990年旧西ドイツ国立トロツィンゲン音楽大学・大学院を最高点で修了。同校在学中よりユンゲスフィルハーモニシエスオーケストラ・シュトゥットガルトメンバーとしてドイツ各地で演奏、録音を行う。1992年フィンランド ヨエンスウ市立管弦楽団に首席フルート奏者として入団、同時にシベリウスアカデミー音楽大学クオービオ校専任講師に就任。1994年2月帰国、1996年11月より室内オーケストラ、アンサンブル・神戸を主宰する。1998年第2回松方ホール音楽賞大賞受賞。

レリア地方、ヨエンスという河口の街で知りあったんですよ。

シュビラー 人生にはいろいろな面白い出会いがあるものですが、私たちの場合は音楽的出会いですね。

音楽的出会いとは、例えば1週間とか4日だけとか、1回の演奏会に関してはそんなものです。私たちの場合はその触れあいから段々発展していった。音楽的にお互いを理解しあったものが発展して、人間的にも理解しあえたわけです。また、矢野さんを通して、日本の音楽家との新たな出会いもたくさんありました。矢野さんは神戸にずっと住んでますので、特に神戸では私たちの演奏会にいつも来てくれ、一緒にしゃべったり、食事に行ったりする人たちも増えてきました。

矢野 じゃあ、神戸は好きですか？

シュビラー セメントやコンクリートだけで出来たような印象のある、落ち着かない雰囲気のある都市も多いけれど、神戸はリラックスした雰囲気、芸術

的な趣もあって好きですね。私は特に神戸では散歩がしたくなるのです。ほかの都市ではなかなか街中で散歩はしません、タクシー乗ったり地下鉄で移動したりね。でも神戸だったから、ちょっと長い距離でも散歩しながら歩いて行きます。

矢野 神戸は山も海も見えるし、散歩したくなる街ですよ。食べ物は何が好きですか、神戸では？

シュビラー 好き嫌いほとんどなくて、ニンニク以外は何でも食べます。神戸では魚をよく食べるかな。あと、お好み焼きが好きなんです。神戸に来ると、湊川神社の近くにあるフジっていうお好み焼き屋さんに毎回行くんですけど、おいしいですね。お好み焼きの種類も、中に何が入っているのかも全然わからないんだけど（笑）。そのお店のご夫婦が協力してやっていて、そういう雰囲気も好きです。矢野 僕たちは12年前に知りあったんですが、神戸での活動は、9年前から。僕は震災の少し前にヨーロッパから神戸に戻っていて、震災後、アンサンブル

をやりたいと考えました。アンサンブルやオーケストラは弦楽器が基本ですが、僕は管楽器＝フルートなので、オーケストラでプレイしていても基本になる弦楽器のことをあまり知らなかったんです。それで弦楽器をどう扱っていったらうまくいくか、盛り上げていけるか、人を集めていけるか、シュビーラーさんに協力してもらった。今でもやっていることです。まず具体的には若い人達にレッスンしてもらって、その中からやる気と才能のある人を見つけてもらって、そういう人を集めてきたのです。もちろんそれだけではなく、ベルリンフィルのアンサンブルをずっとやってらした方ですから、アンサンブルに対するテクニクを教わったりして。良いお師匠さんってことですね。

シュビーラー 良い先生というのは結局、各音楽家の良い面をすぐ見つけてあげる先生ということでしょうね。私は指揮もしますけども、一緒に演奏するんですね。演奏会前の練習では、まず最初に曲を通すんですけど、ほかの音楽家と一緒にやることによって、音楽的なアイデアが湧いてきて、またほかの音楽家は私のアイデア・意識を理解してくれます。良い先生と言ってもらえるなら、そういうところがでしょうか。ですから2回目の演奏からは全く違ったものになるんです。

音楽というのは、育ってきた 風土の影響が大きいと思います

矢野 僕は長田の浜の方の出身なんです。音楽をはじめたきっかけはお決まりの、ピアノを習わされて週に1回ピアノのフタあける・・・みたいな感じでした。小学生の時に、北区の小学校に増田先生という方が指導してらした有名な合唱団があって、そ

こに所属。それから中学に入ると、ブラスバンドに所属してチューバとかやってました。フルートは趣味で吹いていたんですが、高校に入ってブライベイトで金昌国先生に師事。大学は東京の武蔵野音大に進んで、卒業後ヨーロッパへ。主にドイツにトロツシンゲンという街で勉強して、6年くらいオーケストラで仕事してたりしたんですけど、1992年にフィンランドのオーケストラに入団しました。その時、シュビーラーさんと知りあったわけですけど。シュビーラーさんは、もともとこのご出身でしたっけ？シュビーラー ドイツのベルリンで生まれて、アルゼンチンで育ったんです。ベルリンに5歳くらいまでいて、ルクセンブルグに移動して2、3年、そのあとアルゼンチンへ。アルゼンチン時代にバイオリンを習っていたユーゴスラビア出身の先生、名前が私の名前とLとRの1文字違いでした。その先生は今95歳ですけど、世界で活躍しているアルゼンチンのバイオリン奏者は、ほとんど彼の弟子ですね。アルゼンチンに20年近くいて、その後ロンドンへ渡り、マックス・ロスタールっていう有名な先生に付きましました。でもマックス・ロスタールより、アルゼンチンの先生の方に、基礎的なこと、たくさんのことを学びました。

矢野 音楽というのは、そういう育ってきた風土の影響も大きいですね。

シュビーラー そうですね。音楽は先生から学ぶだけではなく、自然から影響を受けるとかいろいろあります。私はベルリンフィルというすごく良いオーケストラにいたので、その音楽から良い影響を受けました。良い指揮者がたくさん来たので、そこからインスピレーション貰ったり、学んでいくことはたくさんありました。

矢野 良い音楽家との出会いには、大きな影響を与

えられますよね。

シュビーラー 重要なことをたくさん勉強できます。私たち音楽家同士は、音楽を通して言葉なしでもわかりあえる。音楽で、お互い理解しあいます。だから違う国に行って音楽することも、苦にならないし簡単なことなんです。

矢野 音楽家はあんまりしゃべりませんか。言葉じゃないんですね。例えば、最初にレッスン行った時に、先生の音を聞いておおーっと思ったとか、そういう感じ。



シュビーラー でも最終的に先生が教えられるのは20%くらいで、残り80%は自分が練習して獲得するもの。重要なのは、ただ機械的にくり返して練習するのではなく、考えることから始めるということ。私がレッスンする場合などはまず最初に、曲をどうやって解釈して、どう演奏したいかしっかり考えることと言います。考えることなしでは、音楽はメカニックになってしまいます。音楽は、考えることと感じるもののコンビネーションで成り立つのです。

矢野 10月のアンサンブル・神戸の定期演奏会で共演するシュテファン・シリイというオーボエストはヨーロッパ時代の僕の同級生。彼とも話してたんですけど、やっぱり音楽に対しての姿勢、真摯に取り組む姿勢をシュビーラーさんからすごく学びましたね。どんな時でも、やりたいと思う音楽を作るためには妥協しない姿勢が素晴らしい。そしてそれに対する根性があるというか、耐え抜く力、それがすごいなと思います。でも、仙人みたいに音楽だけというのではなくて、人生を楽しんでおられる。いろんなところにバカンスに行ったり、人生を楽しむ術もハデではないですが心得ておられる。

シュビーラー 私は音楽家というのは、世の中で一番美しい職業だと思うんです。でも、それには音楽に対する愛がなければね。もしテクニクに走ったり、お金を稼ぐことだけを目的したら最低の仕事になってしまいます。

**もし生まれ変わったとしても
また音楽家になると思います**

矢野 先週山梨県の甲府でふたつ、デュエットの演奏会やったんですけど、やっぱり引きずられるような感じでした。こうやろう！というシュビーラーさ

んの情熱に。やっぱり先輩やからね、で、お師匠さんであり、マイスターですから。その甲府のホールはシュビラーさんが名付け親なんですよ。

シュビラー ええ、スペイン語で『アルコス・アルモニコス』、ハーモニのある弓の調和という意味です。建物の中に弓のカチをした部分があって、その中で弓をもって演奏するわけなので、この名前を付けました。

矢野 お好きな曲というのはたくさんおありだと思ふんですが、例えばどんな？

シュビラー まずは今取り組んでいる曲。そこに入り込んで作っていかなきやいけないので、演奏会に向けて今やっている曲が一番好きな曲ですね。練習というのは、どう演奏しようかを考える練習でもあるわけです。そういう練習をする機会があるのは、素晴らしいことです。

大きなラインではね、フィッツナーとかマーラーが好きだったり、バッハのフーガよりはマックス・レーガーの方が好きだったり。モーツァルトの方が



▲神戸松方ホールにて

サリエリより好きとか、そういうのはあります。矢野 僕もサリエリよりはモーツァルト、でもレーガーよりはバッハの方が好きです。

シュビラー それは趣味の問題ですね(笑)。

矢野 いろいろ各国まわって演奏してらっしゃって、特に思い出に残る演奏というのはおありですか。

シュビラー カラヤンが東京でベルリンフィルを指揮して、ブラームスの交響曲の3番を演奏した時ですね。実は、カラヤンは4つあるブラームスの交響曲の中で、3番が一番不得意でした。ベルリンフィルとは長年やってたんですけど、自分の目指す音楽を、どうやってオーケストラをコントロールして引き出すかがわからなかった感じですよ。東京の演奏会でも最初の2、3小節は最悪でした。オーケストラはカラヤンのことがわからなかったし、カラヤンもどうしていいかわからなかった。でも突然、4、5小節目から指揮者とオーケストラが理解しあって、今までのブラームスの3番の演奏の中で一番の出来でした。カラヤンもオーケストラもみんな泣いてました。次の日の練習では、カラヤンがすごく感謝してました。今、ブラームスの3番をどうやって指揮したら良いか、やっとわかりましたと。でもそう言った割には、そんなに素晴らしいかったのはその晩だけ(笑)。音楽は瞬間のものなんです。

矢野 わかります。でも面白い話ですよ。

シュビラー 指揮者とオーケストラが感情の面で理解しあえる瞬間があるんですね。感情の問題ですから、指揮でどうのこうの出来ることではないんです。ドイツ語のことわざで『星の時間』というのがあるんですが、まさにそんな感じですね。他の指揮者とも同じような体験がありますけども、それが思ひ出されます。バーンスタインとマーラーの交響曲の9番を演奏した時も素晴らしい。バーンスタ



インはベルリンフィルでは1回しか指揮してないんです。だからお互いに音楽的な言葉を理解するのは、最初非常に難しかった。でもオーケストラを彼が理解してからは、素晴らしいコンサートでした。

矢野 お好きな指揮者はいらつしやるんですか。

シュビラー サー・ジョン・バルビローリ。イタリア人で主にイギリスで活動していましたが、ベルリンにもたまに来ていました。バルビローリの場合は、絞ればいくらでもが出るオシボリのように、絞り出していくらでも音楽のアイデアが出てくる人なんです。

矢野 音楽人生というのは一番美しいとおっしゃいましたが、ご自身を振り返ってもそう思われますか。シュビラー もし生まれ変わったとしても、また音楽家になると思います。長い演奏活動の中でたくさんミスしてききましたけども、そのミスをとりかえしたい。子供の頃、サッカーで遊び惚けていた時間を、もうちょっと練習しておきたかったな。

矢野 僕もそうですね。小さい時からピアノ、週1

2月・EVENT CALENDAR

開催日	イベント (有)は有料 (前)は事前申込が必要	お問い合わせ
2月12日 (土)	「阪神淡路大震災から10年、外国 人と共に暮らすまちをめざして」 (有)	財団法人神戸学生青年センター 078-271-3270
2月13日 (日)	阪神大震災10周年記念事業 ―神戸からの発信― 君をはげます音楽会 (前)	神戸ポートピアホール 078-321-0772
2月13日 (日)	わかもの発! 未来につなげ1.17 (前) (有)	ビブレホール・新長田駅南側広場 078-991-1504
2月14日(月) ～25日(金)	第11回長田文化ウィーク (前)	長田区役所7階市民ギャラリー・ビルホール 078-579-2307
2月20日 (日)	大震災10周年メモリアルコンサート「神戸 からの発信」"Beginning to see the light" (有)	神戸新聞松方ホール 06-6442-0370
2月21日 (月)	シンポジウム「災害と図書館」 (前)	新長田勤労市民センター 078-371-3351
2月25日(金) ～27日(日)	震災10年神戸公演 "TWO DASH" (有)	神戸アートビレッジセンター 090-8529-0079
2月26日 (土)	復興における緑化まちづくり・ 記念フォーラム	ラッセホール(予定) 078-322-5422

んできたような気がします。アンサンブル・神戸と神戸の街が、これからも同じように発展していったらいいなと思います。

(10月27日、神戸松方ホールにて)

回しかやってなかったけど、もっと毎日練習しておけば良かった(笑)。シュビラー 生きるというのは、自然から生まれることです。その与えられた生は非常に美しいものですが、明日何が起こるかはわかりません。先日の新潟や10年前の神戸のように地震が来るかもしれないし。悔いのないように音楽に取り組んでいきたいですね。

矢野 僕は震災の少し前にヨーロッパから帰ってきて、自分がゼロからはじめる、ちょうどそのポイントだったので、震災後の神戸と一緒に歩